

## 2020年度 全公教岡山大会引継ぎについて

2020.11.6(金)

- ※ 「総務部」は人的関係を取り仕切る。
- ※ 仕事量は多岐に渡っているにも関わらず、教頭数や時間に限りがあるので、外注できることは県事務局に相談し、外注する。たとえば「受付」「アンケート集計」「パソコン記録」等々
- ※ 弁当販売も業者に依頼する。
- ※ コロナ禍でもあるので、「話し合いの回数を減らす」「各学校教頭の業務負担軽減」を考えると、メールでのやり取りで可能なことは電子媒体で実施する。
- ※ 総務部での原案作成(話し合い)が必要な場合は、総務部長、総務副部長、各班長、総人数6人で実施する。
- ※ 全公教佐賀大会提言者研修会(「1月19日(火)」)の事前計画を、総務部、研究部、庶務部で協働し、本大会のプレ大会の心づもりで取り組んだ方がよい。
- ※ 全体の大きな枠組み ⇒ 総務部分担 ⇒ 総務部各班 と、現在取り組んでいるような組織で取り組んだ方がよい。
- ※ 他の部からの依頼があるときは、他部長から総務部長へ依頼し、縦系列で組織を動かす方がよい。たとえば以下のような方法は混乱を招き、情報が錯そうするので良くない。「総務部—教育講演会班—庶務部」(×)。このような際は、「総務部—教育講演会班—総務部長—庶務部長—庶務部関係班」(○)の流れがスムーズである。
- ※ 令和2年度中に、「全公教佐賀大会運営要項目次の割り振り」を作成する。
- ※ 大会運営に当たり、分科会、教育懇談会、シンポジウム等々、タイムキーパー(進行に知らせる人)が必要である。
- ※ 開閉会式、シンポジウムのステージ転換をどのように、だれがするのか等計画を立てておく必要がある。
- ※ 教職員の異動があり、組織改編もあるので、実働は令和3年4月1日からである。総務部長、副部長、各班長等の入れ替えがあった際は、その内部組織の中から交代する。

## 令和2年度全国公立学校教頭会研究大会連絡会

令和2年11月6日(金)

13:00 ~ 16:30

ホテル グランヴィア 岡山

### 1 全体会

#### 提言者研修会

①研究に係ること…研究部(「連絡会要項」P39~40→岡山大会から)

②人に係ること…総務部

③物に係ること…庶務部

「研究の手引き」→「提言者研修会要項」に載せる。

提言者研修会のあり方について、事前に提言者にお知らせする。

大会当日の発表時間は20分だが、提言者研修会では10分だった。

「反省集計」を参考にしてほしい。

対面で行うこととズームで行うことを分ける。

教頭会としての取組でなくてはならず、学校の取組ではいけない。

シンポジウムはズームでもよいのではないだろうか。

提言者への修正意見を伝えるのは、全公教本部にお願いしたい。

岡山大会の研究部の組織は、研究部長・副部長、全体会(シンポジウム)係長・主任、分科会係長・主任としていた。

全公教研究部、顧問会指導者に事前に提言原稿を渡し、目を通してもらう。

折原全公教研究部長…見せていただいて、よりよいものにしていきたい。

西村全公教副会長…「研究の手引き」にある3C(継続性、協働性、関与性)を大事にしていきたい。

### 2 研究部会(岡山県 國富、小林、佐賀県 山口、中山、草場、岩手県 井藤、佃)

岡山県では、中学校が主で、小学校が副だった。

滋賀大会はシンポジウムがよくなかった。

協議の柱が大切である。

12期のテーマの発表が遅く、提言者には伝わらなかった。

提言者研修会には、分科会の司会者・運営責任者も参加してもらう。

「連絡会要項」P77にある協議の柱を決めるのが難しい。

リモートで行うのなら、提言原稿の完成度を高めておく必要がある。

その際、誰が提言者に伝えるのか、佐公教か全公教か…?

提言者研修会は、プレ大会と位置づけるべきである。

10分での発表だったら、提言者に全公教から伝えてもらっておいた方がよい。

研究部は「研究の手引き」を読み込んでおく。

全公教と佐公教の役割の棲み分けが必要である。

佐賀大会の指導助言者は、「研究の手引き」を読み込んでいない状態である。

運営責任者が提言内容まで差配できるか。

原稿チェックが大変である。

提言者研修会の後もメールでのやりとりが必要であり、年度いっぱいにかかるだろう。

原稿の手直しの手順は…全公教顧問、指導助言者、運営責任者…？

P77の「研究内容と協議の柱」を提言者研修会までに作っておく。

運営責任者の会議（原稿のチェック、原稿の手直し、協議の柱の決定）を提言者研修会までに行う。

運営責任者は研究面（研究内容）、会場責任者は運営面（人、物の動き）を担当する。

全公教は事前に原稿を送っても、「提言者研修会で…」と言われた。

原稿は期限までに集まらない可能性がある。

「提言者研修会要項」と「提言者研修会提言原稿」を提言者研修会の全参加者に渡しておく。

「研究の手引き」は出るのが遅いので、そこに載っている課題が解消されない。

### 3 佐賀大会総務部、研究部、広報部の打合せ

12/17（木）or18（金）の実行委員会で提言原稿をまとめて出す。

1/19（火）提言者研修会は、全体会と分科会（提言内容の協議）をズームで行う。  
事前にズームの接続テストを行う必要がある。

### 4 草場顧問、山口研究部長、中山研究副部長の打合せ

1/19（火）提言者研修会

①リハーサル（接続テスト）の可否

②分科会別の時間（約90分→120分に延長できるか）

③参加者（全公教、研究部員）

④分科会ルームの設定（誰が仕切るか）

11/24（火）提言原稿×切後

12月初旬に原稿送付

・指導助言者（全公教顧問） 分科会分

・全公教研究部（事務局経由）全員分（「研究の手引き」等を添付）

12/17（木）or18（金）に配付

・県内の研究部員 全員分（「研究の手引き」等を添付）

・司会者 分科会分（「研究の手引き」等を添付）→役割分担の明確化

・運営責任者 分科会分（「研究の手引き」等を添付）→役割分担の明確化

提言者 全員分（「研究の手引き」等を添付）

1/6（水）or7（木）

研究部員（司会者・運営責任者）の事前打合せ

協議の柱の研究部案

提言者研修会のシナリオ

リモートの接続テスト

文責：研究副部長 中山（鳥栖中）

## 佐賀大会に係る全公教井部事務局長へのお願いや質問

令和2年11月6日

### 1 提言者研修会について

- ① 提言者研修会については、一堂に会することは取りやめとすることで進めてよいか。役員会や理事会、提言者などには、いつ知らせたらよいか。
- ② 一堂に会しての提言者研修会の代案を、実行委員会としては別紙1のように考えているが、役員会や理事会、提言者などには、いつ知らせたらよいか。また、決定の時期等は、いつ、どこで、決めてよいか。なお、実行委員会としては、11月末までには、一堂に会しての提言者研修会の取りやめとその代案について、関係者に知らせたいと考えている。

- ### 2 佐賀大会に係る全公教本部（役員会及び理事会）の今後のタイムスケジュール（例、第2次案内の検討時期や決定時期、発送時期など）について知らせてほしい。
- 実行委員会の関係文書等についてのスケジュールは、別紙2のように考えているが、本部と整合性をもって進めたい。

### 3 分科会関係について（別紙3）

- ① 分科会における顧問会の指導助言者を11月末までに知らせてほしい。
- ② 第6分科会及び特別分科会のテーマ並びに講師については、いつ決定され、知らせてもらえるのか。第2次案内に記載し、印刷、発送するには、遅くとも3月初めには連絡してほしい。
- ③ 各分科会の分科会運営に関する全公教の運営委員については、その氏名をいつ連絡してもらえるのか。

### 4 提言者一覧について（別紙4）

- ### 5 大会開催の有無については、3月の理事会では決定してほしい。また、開催する場合の規模（参加者数）についても、この時期に決定してほしい。2次案内に併せて申込書も同時に発送するため。